

# 新県立野球場整備構想

令和6年3月

石川県県民文化スポーツ部

# 新石川県立野球場整備構想目次

## 第1章 建設地の概要

1-1	計画地の概要	1
1-2	関係計画の整理	2
1-3	交通環境	4

## 第2章 野球場の現状

2-1	施設概要・沿革	6
2-2	利用状況	7
2-3	野球競技の動向	8

## 第3章 課題の整理

3-1	野球場としての課題	10
3-2	社会情勢の変遷等への対応	12

## 第4章 コンセプト・5つのビジョン

4-1	コンセプト	15
4-2	ビジョン① 球児の憧れである「阪神甲子園球場」と同等のプレー環境 の創出	16
4-3	ビジョン② 選手ファーストでの施設整備	21
4-4	ビジョン③ 誰もが楽しく観戦できる環境整備	24
4-5	ビジョン④ 環境負荷軽減・ユニバーサルデザインによる施設設備	26
4-6	ビジョン⑤ 賑わいの創出	30

(参考) イメージパース

# 第1章 建設地の概要

## 1-1. 計画地の概要

県立野球場が所在する西部緑地公園は、昭和40年代に産業展示館及び県立野球場を備えた公園として整備され、その後、県民や業界のニーズを踏まえ、陸上競技場の整備や産業展示館の増設など、スポーツや賑わいの拠点として、機能の充実強化が図られてきました。

段階的に整備を進めてきた結果、施設や駐車場の配置、園内動線の複雑化しているなどの課題があるほか、産業展示館及び県立野球場については、築後50年近く経過し、老朽化が進行しています。

このため、新たな県立野球場の整備を検討することとしています。なお、計画地の概要は以下のとおりです。

### ■計画地概要

1. 所在地 石川県金沢市北塚町地内
2. 敷地 西部緑地公園内
3. 地域・地区 都市計画公園・県立都市基幹公園/ 運動公園
4. 用途地域 無指定（市街化調整区域）
5. 基準容積率 200%
6. 基準建蔽率 60%
7. 防火地域 無指定
8. 日影規制（10m超えの建築物が対象）
  - (1) 隣地境界からの水平距離が5m～10m以内の範囲における日影時間 4時間
  - (2) 隣地境界からの水平距離が10mを超える範囲における日影時間 2.5時間
  - (3) 平均地盤面からの高さ 4m
9. 高度地区 無指定
10. 接道 北側 県道  
東側 県道196号  
西側 県道主要地方道25号 金沢美川小松線  
南側 国道8号線

### ■位置図



### ■公園全体図



## 1-2. 関係計画の整理

### (1) 石川県長期構想

平成 28 年に公表された「石川県長期構想」では、「基本目標」の下、「目指すべき将来像」を定め、これを実現するための 9 つの「重点戦略」が設定されています。

野球場に関しては、「重点戦略 9 未来を拓く心豊かな人づくり」の項目において、スポーツ活動の充実が掲げられています。

#### 施策 5 ライフステージに応じたスポーツ活動の充実

- ① 県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けて、環境の整備を推進します。
- ④ スポーツ活動を支える環境の整備・充実を図ります。
- ⑤ プロスポーツと連携し、多くの県民がその活躍や高い技術等に親しむことで、スポーツ意欲の高揚やスポーツ人口の拡大、地域活力の醸成を推進します。

### (2) 第 2 期いしかわ創生総合戦略

石川県にとって重要な課題の一つである地方創生について、本戦略で基本的な考え方が示されています。このうち、基本目標 5 「時代の変化に対応した誰もが活躍できる魅力的な地域づくり」において、本県スポーツの更なる振興が掲げられています。

#### 基本目標 5 時代の変化に対応した誰もが活躍できる魅力的な地域づくり

##### 具体的な施策 4 本県スポーツの裾野の拡大と競技力向上

東京オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズなどの世界的なスポーツイベントの開催により、県民のスポーツに対する関心が高まっていることから、本県スポーツの更なる振興と県民の健康増進、地域の活性化を図る。

### (3) 石川県スポーツ推進計画 2021

本計画は、スポーツ基本法に基づく「地方スポーツ推進計画」であるとともに、石川県スポーツ推進条例に基づく、本県のスポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画です。

基本施策Ⅰ「生涯にわたるスポーツ活動の振興」においては、女性や障害者のスポーツ活動の振興やスポーツ施設の整備・充実について記載されています。

また、基本施策Ⅲにおいて「スポーツを通じた地域活性化」が掲げられています。

## 基本施策Ⅰ 生涯にわたるスポーツ活動の推進

### 3 女性や障害者のスポーツ活動の振興

#### 【現状と課題】

(前略) 男性に比べ女性の運動習慣者の割合が低いことなどの課題に鑑み、女性のスポーツ参加を促進するための環境整備を行う必要があります。

### 6 スポーツ施設の整備・充実

#### 【現状と課題】

平成20(2008)年に開設した「いしかわ総合スポーツセンター」など、県内各地のスポーツ施設は、県民のスポーツ活動の基盤として重要な役割を担っています。しかし、その多くは、建設から相当年数が経過しており、老朽化やユニバーサルデザインへの配慮、ICTの活用など、利用者の視点に立った設備の整備や機能の充実が求められています。

#### 【主な取組】

県有施設については、長寿命化対策などにより、県民のスポーツ活動の基盤としての機能の維持や充実のほか、多種多様化するスポーツに対し、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、すべての人々が気軽に、安全かつ快適にスポーツに参画できるように努めます。

特に老朽化が進行している県立野球場については、建て替えに向けた検討を進めます。

## 1-3. 交通環境

### (1) 公共交通によるアクセス

#### ①鉄道交通アクセスの状況

西部緑地公園には、最寄り駅の JR 北陸本線西金沢駅よりタクシーで約 10 分、新幹線や特急の停車駅となる北陸新幹線・JR 北陸本線・IR いしかわ鉄道の金沢駅よりタクシーで約 15 分の距離です。

運航頻度は、福井方面、富山方面とも、普通列車が 1 時間に 2～3 本程度（約 30 分間隔）で運行しています。

特急列車は、福井方面が 1 時間に 2～3 本程度（約 30 分間隔）で、北陸新幹線は、富山方面が、1 時間に 2～3 本程度（約 30 分間隔）でそれぞれ運行しています。

#### ②バスの運行状況

西部緑地公園の最寄りバス停は、西部緑地公園（園内）、袋畠西部緑地公園前（公園北側）及び松島北（公園南西側（温泉・宿泊施設・西インターテルメ金沢前）。西部緑地公園まで徒歩 2 分程度）があります。

西部緑地公園停留所着のバスは、金沢駅東口のバスターミナル 11 番乗り場より発着しています（56 番：西部緑地線・済生会病院行き）。平日の運行は 1 日 5 本、休日は 3 本となっています（乗車時間は 40 分程度）。

袋畠西部緑地公園前停留所着のバスは、金沢駅西口のバスターミナル 7 番乗り場より発着しています（52 番：示野線・下安原行き）。平日の運行は 1 日 4 本となっています（乗車時間は 17 分程度）。

松島北停留所着のバスは、金沢駅東口のバスターミナル 1 1 番乗り場より発着しています（安原線・みどり二丁目打木行き）。平日の運行は 1 日 14 本、休日は 8 本となっています（乗車時間は 30 分程度）。

#### ③自動車アクセスの状況

西部緑地公園への自動車アクセスについては、最寄りのインターチェンジが北陸自動車道金沢西インターチェンジとなり、国道 8 号線小松方面に下車、県道 25 号線を通行して、約 5 分で到着します。

また、金沢外環状道路海側環状線（白山市乾町～金沢市今町）では、専光寺インターチェンジ（赤土町交差点）が最寄りとなります。ここから西部緑地公園までは約 2 分で到着し、アクセスは非常に良好です。

#### ④駐車場の状況

現在の西部緑地公園内の駐車場は、大小 9 つを合わせた約 2,600 台のほか、混雑時に臨時駐車場として使用している多目的広場の 800 台、いしかわ総合スポーツセンターの約 500 台、テニスコートの約 140 台で、合計 4,000 台以上が確保されています。

※ 西部緑地公園再整備に係る駐車場を含む園内の交通渋滞緩和については、西部緑地公園再整備検討委員会において検討されています。

#### ⑤公共シェアサイクルの状況

金沢市において、電動アシスト自転車を複数のサイクルポートの、どこでも借りることができ、かつ返却できる公共シェアサイクルサービスが提供されています。

サイクルポートは、金沢駅や西金沢駅、西部緑地公園内施設である、いしかわ総合スポーツセンターなど市内 70 カ所以上で設置されています。

## 第2章 野球場の現状

### 2-1. 施設概要

現在の県立野球場は、金沢市石引にあった石川県兼六園野球場を閉鎖し、昭和49年に金沢市北塚町地内の西部緑地公園内に建設されたものであり、指定管理者である一般財団法人石川県民ふれあい公社が管理・運営を行っています。

その後、昭和56年には日本海側初となる本格的な夜間照明施設（6基）を整備し、その後、スコアボードの改修（平成2年に得点の電光化、平成9年にメッセージボードなど完全電光化）を行っており、これまでにNPB（一般社団法人日本野球機構）の公式戦が110試合以上開催されるほか、県内高校野球公式大会の準決勝以上の試合が行われるなど、プロ、アマを問わず利用されており、野球ファンをはじめとする多くの県民に親しまれている野球場です。

#### ■石川県立野球場の施設概要

所在地	石川県金沢市北塚町東220番地（西部緑地公園内）
敷地面積	20,179㎡
建築面積	7,137.76㎡
(内 訳)	スタンド 4,532.20㎡ 事務室 474.91㎡ 倉庫 1,504.63㎡ 機械室兼電気室 151.11㎡ 倉庫 474.91㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造2階建
グラウンド規格	両翼91.5m、中堅122m、グラウンド面積14,066㎡
グラウンド仕様	内野 クレー 外野 天然芝 ブルペン 屋内2レーン
照明設備	6基（鉄骨造、高さ37.4m、各124灯）
収容人数	17,126席（内野11,126席、外野6,000席）
座席仕様	内野ネット裏 セパレート席 一・三塁側 ベンチ席 外野 コンクリート階段
駐車台数	4,079台（西部緑地公園全体）
周辺施設	石川県立野球場が位置する西部緑地公園内には、産業展示館（1～4号館）、陸上競技場、いしかわ総合スポーツセンター、テニスコート等が立地している。



## 2-2. 利用状況

県立野球場は、直近6カ年平均では、年間で120件程度、約10万人が来場しており、利用料金収入は約2,000千円で、年代別の利用状況では、高校生以下の利用が、利用日数では約5割、人数では約7割と最も多く、プロ野球や大学生、社会人にも利用されています。

新型コロナの影響を除く平成29年度から令和元年の3カ年平均では、年間140件程度、約14万人の利用で、利用料金収入は約2,600千円となっています。

### ■石川県立野球場の入場者数及び利用料金

(単位：件、人、千円)

項目	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	平均	コロナ前の平均
件数	155	149	121	97	101	105	121	142
利用者数	128,615	128,645	162,210	25,455	53,212	91,012	98,192	139,823
利用料金	2,705	3,560	1,549	662	2,496	1,040	2,002	2,605

※コロナ前の平均は、H29年度～R元年度の平均値としている。

### ■石川県立野球場の年代別の利用状況（利用日数）

(単位：件、%)

項目	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	平均	コロナ前の平均
高校生以下	88	69	83	50	48	56	66(54.1)	80(56.3)
大学生	30	25	17	18	23	30	24(19.7)	24(16.9)
プロ野球	15	24	3	15	24	3	14(11.5)	14(9.9)
その他	22	31	18	14	12	11	18(14.7)	24(16.9)
合計	155	149	121	97	107	100	122(100.0)	142(100.0)

※コロナ前の平均は、H29年度～R元年度の平均値としている。

### ■石川県立野球場の年代別の利用状況（人数）

(単位：人、%)

項目	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	平均
高校生以下	17,575	17,770	17,911	9,796	11,520	15,212	14,964 (69.1)
大学生	3,920	3,760	3,030	2,133	3,140	4,720	3,451 (16.0)
プロ野球	1,520	2,740	540	864	367	510	1,090 (5.0)
その他	3,145	3,310	1,864	1,732	1,410	1,390	2,142 (9.9)
合計	26,160	27,580	23,345	14,525	16,437	21,832	21,647 (100.0)

※選手、チーム関係者・スタッフ等で計上。一般観客は含まない。

## 2-3. 野球競技の動向

### (1) 高校野球

石川県高等学校野球連盟には県内 50 校が加盟しており、同連盟が主催する春季、夏季、秋季の県大会や一年生大会において、県立野球場が最も多く利用されていることに加え、準決勝・決勝戦といった、甲子園大会やこれにつながる北信越大会の石川県代表を決める重要な試合が県立野球場で行われており、「石川県の高校野球の聖地」と位置付けられています。

#### ■高校野球の各大会における球場別試合数（令和 4 年度実績）

大会種別	県立野球場	金沢市民	小松末広	計
春季大会	20	17	6	43
夏季大会	27	12	4	43
秋季大会	26	5	11	42
一年生大会	6	11	0	17
計	79	45	21	145

注：金沢市民は金沢市民野球場、小松末広は小松運動公園末広野球場を表す。

### (2) 大学野球

北陸大学野球連盟には石川県、富山県、福井県内の大学等が、1部・2部で計 12 校が加盟しており、春季・秋季のリーグ戦や交流戦、新人戦などが開催されています。

加盟 12 校の内訳は、石川県 7 校、富山県 3 校、福井県 2 校と石川県が多く、また、石川県が 3 県の中間に位置することもあり、石川県内の野球場で約 8 割の試合が行われています。

なお、令和 4 年度では、県立野球場の 38 試合が最も多く、以下、小松運動公園末広野球場の 19 試合、金沢市民野球場の 12 試合の順となっています。

#### ■北陸大学野球加盟 12 校

金沢学院大学、福井工業大学、金沢星稜大学、北陸大学、富山国際大学、金沢大学

金沢工業大学、高岡法科大学、富山大学、福井大学、石川工業高等専門学校、金城大学

#### ■大学野球の各大会における使用野球場（令和 4 年度実績）

大会種別	県立野球場	金沢	小松	その他			計
				石川	富山	福井	
春季リーグ戦	7	0	14	19	8	5	53
秋季リーグ戦	17	8	5	8	9	4	51
その他	14	4	0	5	0	0	23
計	38	12	19	32	17	9	127

注：金沢は金沢市民野球場、小松は小松運動公園末広野球場を表す。

### (3) 社会人野球

石川県野球協会、石川県野球連盟などが組織されており、県立野球場では、全日本軟式野球選手権大会の県大会や北信越国民体育大会、北陸アマチュア野球オールスター戦などが開催されています。

#### (4) プロ野球

昭和 47 年の供用開始以降、NPB 公式戦は 110 試合以上が開催されています。開催の多い順では、中日ドラゴンズの 52 試合が最も多く、以下、ロッテオリオンズ(現千葉ロッテマリーンズ)の 35 試合、読売ジャイアンツの 14 試合の順となっています。

直近 10 年では、中日主催の 3 試合、読売主催の 2 試合の計 5 試合が開催されています。

また、プロ野球独立リーグ・日本海リーグに所属する石川ミリオンスタースは、金沢市民野球場などをホームスタジアムとしているものの、年間数試合程度、県立野球場でホームゲームを主催しています。

#### ■これまでの石川県立野球場での NPB 公式戦の主催チーム別開催実績

チーム名	中日	ロッテ	巨人	広島	大洋	オリックス	計
主催試合数	53	35	14	7	5	1	115

※チーム名は、主催当時のチーム名としている。

#### ■石川県立野球場における直近 10 年の NPB 公式戦開催実績

年	試合数	内 容
2022 (R4)	0	
2021 (R3)	1	6/24 巨人－DeNA (5,340 人)
2020 (R2)	0	
2019 (R元)	0	
2018 (H30)	1	5/ 9 中日－ヤクルト (8,765 人)
2017 (H29)	0	
2016 (H28)	1	7/ 6 中日－広島 (11,721 人)
2015 (H27)	1	9/ 2 巨人－ヤクルト (10,401 人)
2014 (H26)	1	7/ 1 中日－DeNA (10,182 人)
2013 (H25)	0	雨天中止

#### ■石川ミリオンスタースの県内野球場の利用実績 (令和 5 年)

球 場 名	ホームスタジアム登録	利用回数
石川県立野球場	なし	2
金沢市民野球場	あり	30
小松運動公園末広野球場	あり	2
寺井野球場	あり	1
珠洲市営野球場	あり	1

## 第3章 課題の整理

### 3-1. 野球場としての課題

#### (1) 施設の老朽化

県立野球場は、高校野球での利用が最も多く、石川県の「高校野球の聖地」と位置付けられています。

しかしながら、供用開始後 50 年近くが経過しており、その間、改修や修繕など機能維持のため必要な対応は実施されてきたものの、経年による老朽化は否めず、聖地としての魅力を維持していくことが大きな課題となっています。

#### (2) プロ野球の開催の減少

新たな県立野球場整備にあたり、県民の要望等を調査するアンケートを実施したところ、「プロ野球が開催できる水準の規模・設備」が約 21%で最も多く、県民のプロ野球観戦に対する期待の大きさが窺えるところです。

県立野球場では、これまでに NPB 公式戦が 115 試合、開催されています。最盛期である 1980 年代では 1981 (昭和 56) 年、1983 (昭和 58) 年、1987 (昭和 62) 年の年間 6 試合を含め、10 年間で 44 試合が開催されたものの、近年では開催が減少傾向にあり、直近 10 年では 5 試合 (ほかに 1 試合が雨天中止) にとどまっています。

また、県立野球場は、両翼 91.5m・中堅 122m、収容人数 (17,126 人) となっており、グラウンドサイズ、観客席数とも、他県の代表的な野球場と比べ、狭小となっています。

さらに、ホームベース後方のフェールグラウンドが広く、プレイヤーにとって守りやすい反面、観客にとっては臨場感を感じにくい面があります。

#### ■ 県立野球場整備に関する県民アンケート結果 (R4. 10. 20~11. 19)

回答項目	回答数	割合
プロ野球が開催できる水準の規模・設備 【ex. 観客収容人数 3 万人程度等】	1,087	20.8%
誰もが楽しく観戦できる環境の整備 【ex. 内野席での屋根設置、バリアフリー化等】	833	15.9%
多目的利用による賑わいの創出 【ex. 野球以外のイベント開催等】	751	14.3%
選手ファーストのプレー環境の充実 【ex. 室内練習場の充実等】	641	12.2%
試合がない日でも楽しめるような工夫 【ex. ベースボールミュージアムの設置等】	566	10.8%
喫茶スペースや売店など附属設備の充実	536	10.2%
将来を見据えた機能的な設備の導入 【ex. 最新技術による大型ビジョンの設置等】	480	9.2%
県民が愛着をもてるような工夫 【ex. 球場の愛称公募、県民サービスデーの創設等】	283	5.4%
その他	64	1.2%
合計	5,241	100.0%

### (3) 室内練習場・諸室

県立野球場には、1・3塁側にそれぞれ2レーンの屋内ブルペンを備えているものの、野手が、ノックや素振りなどの練習ができるスペースがなく、更衣室のロッカーは経年による劣化が著しく、会議室スペースも不十分となっています。

### (4) 収容人数

NPB公式戦が開催されている地方球場では、所在都市の人口規模が大きいほど、収容人数も増加する傾向がみられます。ただし、同一県内にプロ野球の本拠地となる球場がある場合等は、人口規模に比べ小規模な収容人数となっている例も見られるところです（県営大宮公園野球場（さいたま市、人口1,338千人）収容人数20,500人、北九州市民球場（北九州市、人口924千人）観客席数20,000人）。

県立野球場の所在地・金沢市の人口より多い都市では観客席数2万人未満の球場はなく、同規模の他都市と比べ、収容人数は少ない状況となっています。

なお、石川県を除く北信越4県では、比較的、直近に整備された、富山市民アルペンスタジアム（1992年整備）、長野オリンピックスタジアム（2000年整備）、ハードオフエコスタジアム新潟（2009年整備）が3万人となっており、県立野球場供用開始の7年前となる1967年に整備された福井県営野球場では2万2千人となっています。

#### ■コロナ前の3カ年（2017～2019）でNPB公式戦の開催実績がある地方球場（人口30～80万人）

球場名	整備年次	所在都市	人口(千人)	収容人数
浜松球場	1948年	浜松市	783	26,000
ハードオフエコスタジアム新潟	2009年	新潟市	779	30,000
リブワーク藤崎台	1960年	熊本市	737	24,000
静岡県草薙球場	1930年	静岡市	685	21,656
鹿児島県立鴨池野球場	1970年	鹿児島市	589	21,000
宇都宮清原球場	1988年	宇都宮市	515	30,000
松山中央公園野球場	2000年	松山市	505	30,000
倉敷マスカットスタジアム	1995年	倉敷市	478	30,494
<b>石川県立野球場</b>	<b>1974年</b>	<b>金沢市</b>	<b>459</b>	<b>17,126</b>
富山市民球場アルペンスタジアム	1992年	富山市	409	30,000
岐阜県営長良川球場	1964年	岐阜市	402	22,030
ひなたサンマリンスタジアム宮崎	2001年	宮崎市	399	30,000
豊橋市民球場	1980年	豊橋市	370	15,895
長野オリンピックスタジアム	2000年	長野市	369	30,000
スタヒブ球場	1984年	旭川市	325	25,000
群馬県立敷島公園野球場	1932年	前橋市	324	19,293
那覇市営奥武山野球場	1960年	那覇市	317	20,000
秋田県立野球場	2003年	秋田市	303	25,000
秋田市営八橋球場	1941年	秋田市	303	16,421

最大

最小

### 3-2. 社会情勢の変遷等への対応

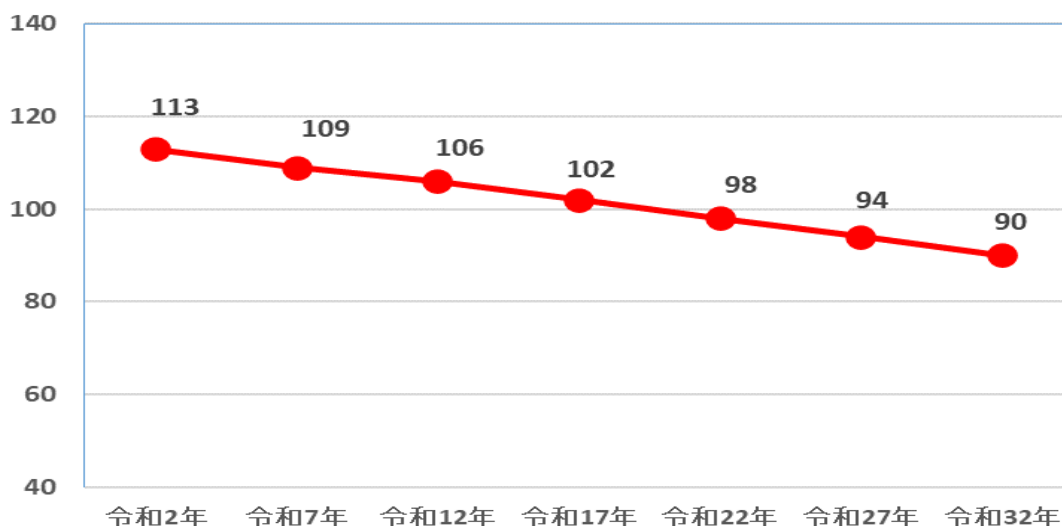
#### (1) 人口減少・野球人口の減少

石川県の人口は、111万4,791人（令和5年2月現在）ですが、国立社会保障・人口問題研究所（厚生労働省所管）が公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」によると、本県の推計人口は長期に渡って減少が続き、令和22年（2040）年には978,926人と100万人を割り込むことが見込まれています。

また、民間の調査によれば、年に1回以上野球を行う人の割合は、男性が約7%（2018年）であり18年前と比べ、約4割の減となっています。

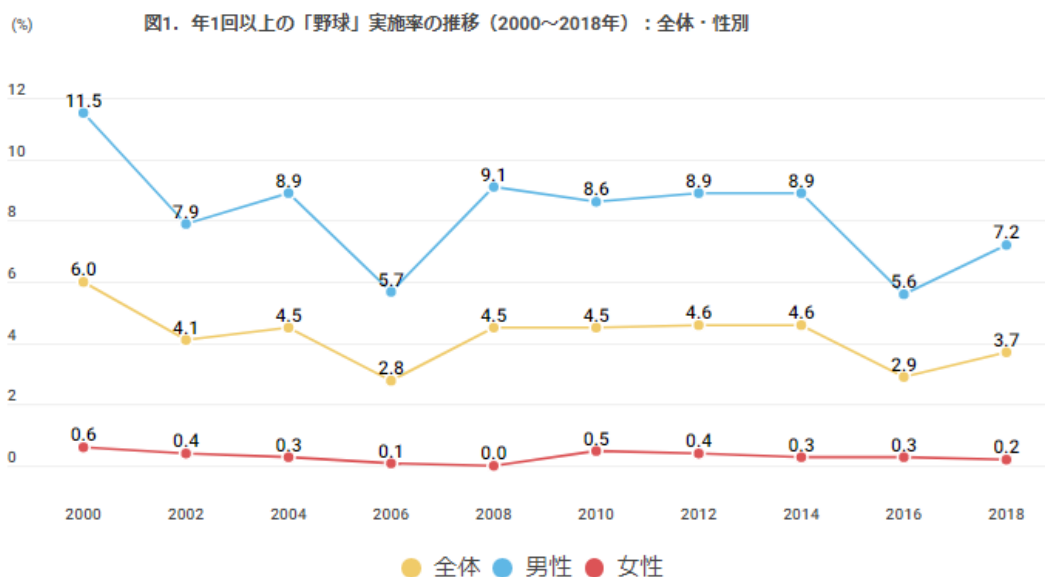
これらのことから、将来、利用者数の減が見込まれるところであり、これに伴い利用料の減収を考慮のうえ、施設整備計画を検討する必要があります。

総人口推移予測（単位：万人）



（出展：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」）

#### 年1回以上の「野球」実施率の推移（2000～2018年）：全体・性別（20歳以上）

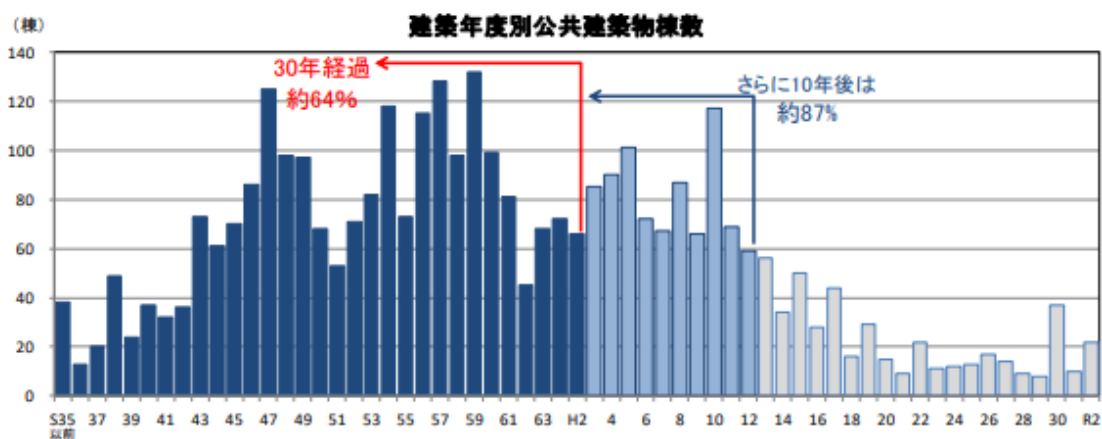


（出展：笹川スポーツ財団・スポーツライフに関する調査2018）

## (2) 県有施設全体の状況

石川県公共施設等総合管理計画（令和4年改訂）によると、令和2年度末現在で築年数が30年を超える公共建築物の割合は、全体の約64%（棟数ベース）であり、このまま更新等を行わなければ、令和12年度末には、約87%が築年数30年を超えることとなり、さらに老朽化が進むこととなります。

今後、多くの公共施設の建て替えや長寿命化対策などが見込まれ、大変厳しい石川県の財政状況を鑑み、適正規模で野球場を整備することが重要になっています。



## (3) 社会的ニーズへの対応

### ①女子選手の利用への対応

現在の県立野球場が建設された昭和49年当時は、野球は男性がプレーすることが一般的であり、こうした前提で選手用のロッカールームやトイレなどが整備されています。しかしながら、近年では、県内でも女子野球選手が増加しており、女子選手が快適に利用できる環境を整備することが求められています。

### ②障がい者への対応

県立野球場では、現在は車イスの利用者に対して、1階バックネット裏の諸室を観覧スペースとして提供していますが、車イスの利用者からは、「大勢の観客と同じように内野席等から観戦して、一体感を味わいたい。」との声を伺っています。近年整備されている野球場では、観客席の一部に車イス観戦者用の観戦スペースが設けられている例も見られます。

### ③熱中症対策

近年の温暖化に伴い、平均気温が高くなっており、特に夏の高校野球石川大会が行われる7月では、県立野球場が整備された1974（昭和49）年と比べると、3～4℃上昇しています。

高校3年生の球児にとって、集大成とも言える夏の大会では、準決勝以降は全校応援が実施されるなど、多くの観客が応援に駆けつけています。このため観客席に屋根を設置するなど、熱中症対策を講じる必要性が高まっています。

■金沢市における7月の平均気温の比較（気象庁HPより）

年 月	日平均気温	日最高平均気温	日最低平均気温
1974年7月	23.9℃	28.2℃	20.8℃
2022年7月	27.3℃	31.6℃	24.3℃
比 較	+3.4℃	+3.4℃	+3.5℃

（4）環境負荷軽減への対応

近年、経済発展やエネルギー消費の増加に伴い、温室効果ガスの排出が増加しつつあり、世界全体で温室効果ガスの削減など環境負荷の少ない持続的発展が可能な社会づくりや、国際協調による地球環境保全の積極的な推進が重要になっています。今般の整備に当たっては、環境負荷軽減に向け、できる対応を検討していく必要があります。



## 第4章 コンセプト・5つのビジョン

### 4-1. コンセプト

第3章で記載した課題を考慮のうえ、充実した機能や設備を盛り込んだ野球場とするため、次の方向性を踏まえ、「子どもたちが夢と希望を抱く野球場」をコンセプトとします。

#### (1) 未来を担う子どもたちが夢と希望を抱く野球場

県民の観戦ニーズが高く、子どもたちの憧れであるプロ野球（公式戦）の継続的な誘致を可能とし、また、「本県高校野球の聖地」に相応しい魅力的な野球場となるよう、選手ファーストの視点で充実したプレー環境を有する野球場を目指します。

#### (2) 誰もが楽しめ、賑わいを生み出す野球場

子どもたちをはじめ県民の誰もが楽しく快適に観戦できるよう、ユニバーサルデザインによる施設整備を行い、人口減少社会にあっても持続可能かつ、賑わいを創出していける野球場を目指します。

### 【コンセプト】

子どもたちが夢と希望を抱く野球場

### 【5つのビジョン】

このコンセプトを具現化するため、次の5つのビジョンを掲げます。

① 球児の憧れである「阪神甲子園球場」と同等のプレー環境の創出

② 選手ファーストでの施設整備

③ 誰もが楽しく観戦できる環境整備

④ 環境負荷軽減・ユニバーサルデザインによる施設設備

⑤ 賑わいの創出

## 4-2. ビジョン① 球児の憧れである「阪神甲子園球場」と同等のプレー環境の創出

現在の県立野球場は、高校野球での利用が最も多く、決勝戦をはじめ県代表校を決める重要な試合が行われているほか、阪神甲子園球場（以下「甲子園球場」という。）と同様、内野が黒土・外野が天然芝であることから、「本県高校野球の聖地」と位置付けられています。

言うまでもなく、甲子園球場は「高校野球の聖地」であり、甲子園球場でプレーすることは、全国の球児の夢であり、目標になっています。

新たな県立野球場では、グラウンドサイズや形状、フェンスの高さ、内野の黒土、外野の天然芝など甲子園球場に準拠した野球場とし、本県の強豪校はもとより、県内の球児をはじめとする野球選手たちに、高いモチベーションで野球に取り組んでもらうため、「甲子園球場と同等のグラウンド環境」を提供することとします。

### （１）フィールドエリア

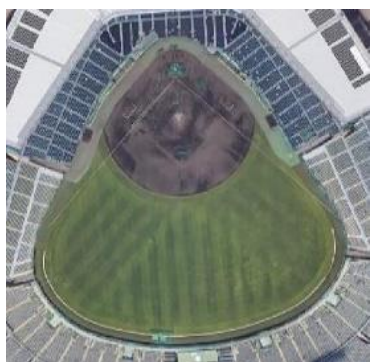
新たな県立野球場では、両翼や中堅までの距離はもとより、フェールグラウンドを含めたグラウンドの形状をできるだけ甲子園球場に準拠するなど、甲子園球場に最も近い野球場を目指すこととします。

通常、多くの野球場では、外野は円の弧を描くような形状となっていますが、甲子園球場では、中堅から左翼・右翼にかけての部分が特に深くなっており、両翼のポール際で急に浅くなる、独特の形状となっています。

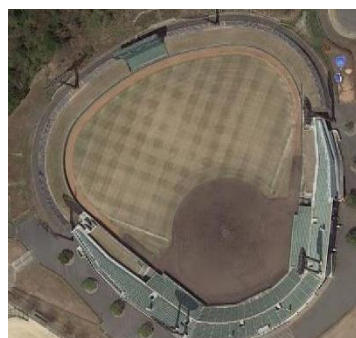
左中間・右中間が深いため、外野手の守備力やランナーの判断力の重要性がこれまで以上に高まることとなり、本県の野球レベルの向上が期待されます。

なお、甲子園球場に準拠した形状で整備した野球場では、尾道市の広島県立びんご運動公園野球場（ぶんちゃんしまなみ球場）の事例があります。

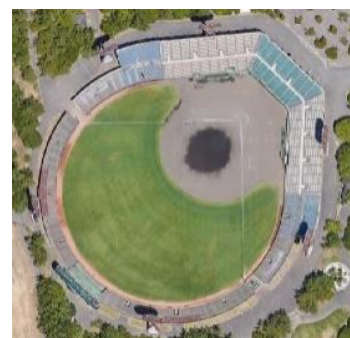
### ■野球場の形状（甲子園球場、ぶんちゃんしまなみ球場、県立野球場）



甲子園球場



ぶんちゃんしまなみ球場  
（甲子園球場準拠）



県立野球場

## (2) グラウンドの仕様

グラウンドは、主に天然芝（内野は土）と人工芝の2種類が考えられます。

天然芝は、クッション性に優れ、選手への負担が少なく、夏場では温湿度抑制効果があり、日光の照り返しが少ないといった特徴があります。一方、人工芝は、使用後の芝養生が不要であるため、多目的利用に適しているほか、透水性に優れているので、雨天後もゲームを再開しやすいことが特徴として挙げられます。

なお、NPB12 球団の本拠地の球場では、6つのドーム球場を除く、6球場では、天然芝、人工芝がともに3球場となっており、MLB30 球団では、ドーム球場を除くと概ね天然芝が採用されています。

このように、それぞれ長所がありますが、選手ファーストの視点で、プレー環境を整えることを最優先に、県立野球場で最も利用が多く、成長発達段階にある高校生をはじめ、利用する選手の身体の負担を考慮するとともに、「利用後には、感謝の気持ちをもってグラウンドを整備すること」が教育的な観点から非常に重要であるとの専門家のご意見も踏まえ、甲子園球場と同様に、天然芝（内野は土）で整備することとします。

使用する土の原産地や、芝の品種についても甲子園球場に合わせ、内野は鹿児島産の黒土、外野は生育の早いティフトン芝（現野球場では高麗芝）とし、常に良好なプレー環境を提供することを目指します。

### ■天然芝・人工芝の特徴について

種 別	特 徴	概算経費（単位：百万円）※		
		導入経費	維持管理	合 計
天然芝	<ul style="list-style-type: none"><li>クッション性に優れており、選手への負担が少ない。</li><li>夏場の温湿度抑制効果があり、日光の照り返しが少ない。</li></ul>	安い 約 250	高い 約 1,300	やや高い 約 1,550
人工芝	<ul style="list-style-type: none"><li>使用後の芝養生が不要であり多目的利用に適している</li><li>透水性に優れ、雨天後、再開しやすい</li></ul>	高い 約 350	安い 約 1,050	やや安い 約 1,400

※概算経費は、直接経費（諸経費は含まない。）であり、維持管理は30年で算定

### (3) フェンスの高さ

現在の県立野球場のフェンスの高さ(防球ネットを除くラバーフェンス部分のみ)は、内野が約2m、外野が約1.5mとなっています。これは、他県の野球場と比べ、それほど高いわけではありませんが、近年整備された盛岡市のきたぎんボールパークでは、1・3塁側のフェールグラウンドに、グラウンド側にせり出したフィールドシートを設置するなど、選手との一体感や臨場感を味わえるような工夫が見られます。

また、甲子園球場では、内野フェンスが外野より低くなっており、最前列の観客は、選手と同じ目線で観戦することができる観客席となっています。

新たな県立野球場では、フェンスの高さについても、甲子園球場に準拠することとし、選手にとっても、観客にとっても、甲子園球場と同様な環境で、臨場感をもって、野球の試合を楽しんでいただくことを目指します。

また、ラバーフェンスの上部にしっかりと防球ネットを整備し、観客の安全に十分に配慮します。

#### ■甲子園球場及び県立野球場のラバーフェンス



甲子園球場 (外野)



甲子園球場 (内野)



県立野球場 (内野・外野)

#### (4) 観客席数

N P B公式戦の開催を見据えると、観客席数は、第3章 3-1(4)で記載のとおり、金沢市の人口規模で現野球場の1万7千席は、他県野球場と比べても不足しており、観客席を増席する必要があると考えられます。

一方で、コロナ前の3ヵ年(2017~2019)でN P B公式戦が開催された地方球場における入場者数では、2万5千人を超えたのは6試合、2万2千人を超えたのは8試合で、9割以上の公式戦では、2万2千人未満となっています。

なお、入場者数が2万2千人を超えた試合の大半は、倉敷マスカットスタジアム、ハードオフエコスタジアム新潟で開催された試合ですが、倉敷市は近隣に岡山市(約70万人)があり、新潟市は約77万人と人口規模が大きなことが要因として考えられます。

また、隣県での直近10年のN P B公式戦の入場者数では、富山市民球場アルペンスタジアム(3万人収容)では、13試合のうち、最大が2万1,641人、福井県営野球場(2.2万人収容)では、5試合のうち最大が1万8,864人となっており、いずれも2万2千人を下回っています。

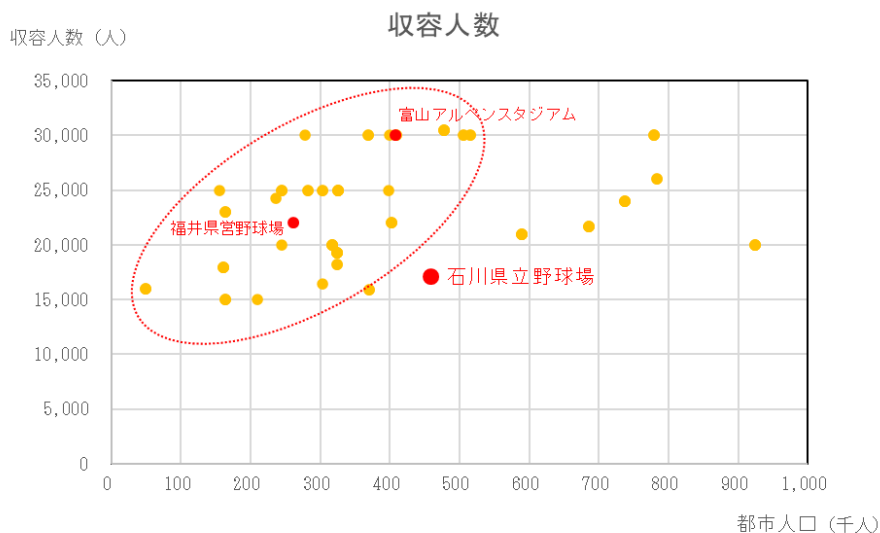
こうしたことに加え、人口減少・野球人口の減少傾向や県の財政事情も考慮し、観客席数は、現在の1万7千席から5千席増となる2万2千席規模で検討を進めることとします。

収容人数の拡大により、現状よりも広がる観客席の下部スペースを有効活用し、施設規模を抑えながらも必要な設備を備えた魅力的な野球場となるよう、併せて検討します。

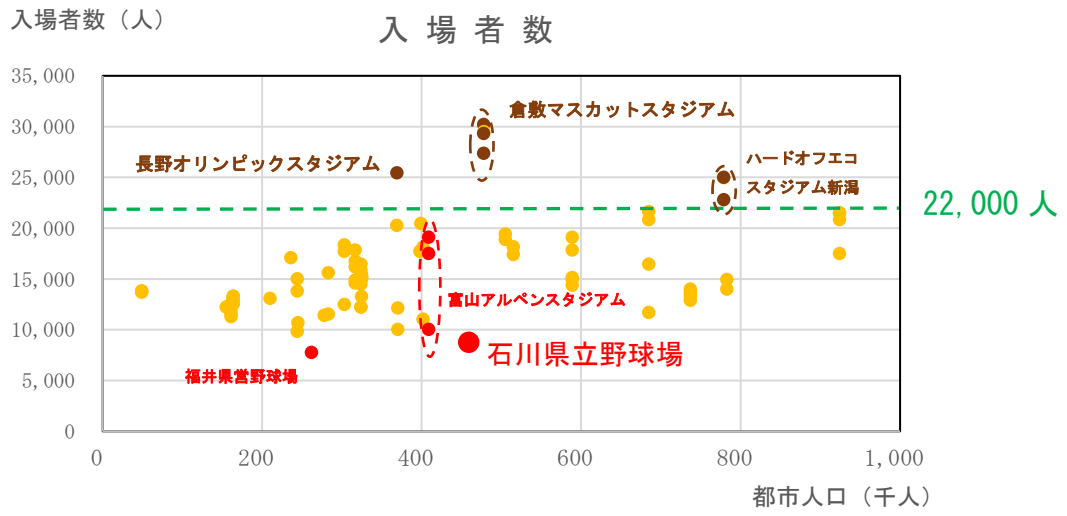
#### ■金沢市と人口規模に近い都市の野球場の収容人数

宇都宮市 (515千人)	宇都宮清原球場	(3万席)
松山市 (505千人)	松山中央公園野球場	(3万席)
倉敷市 (478千人)	倉敷マスカットスタジアム	(3万席)
金沢市 (459千人)	石川県立野球場	(1.7万席)
富山市 (409千人)	富山市民球場アルペンスタジアム	(3万席)

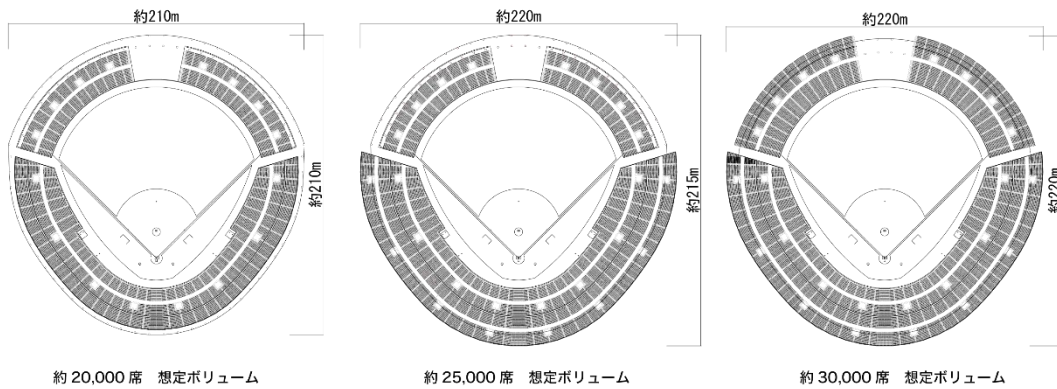
#### ■プロ野球が開催された地方球場における収容人数の分布図(2017~2019実績)



■ 地方球場でのプロ野球の入場者数の分布図（2017～2019 実績）



■ 野球場の規模別のイメージ図



#### 4-3. ビジョン② 選手ファーストでの施設整備

県立野球場は、県内で唯一、NPB 公式戦が開催されているなど、本県を代表する野球場であり、このグラウンドでプレーすることは、県内の野球選手にとって特別なものであるとの声があります。その一方で、近年では子どもの野球離れが進んでいます。

こうした状況を踏まえ、プレイヤーがベストパフォーマンスを発揮できるよう、選手ファーストの視点でプレー環境の充実を図ることにより、子どもたちの野球に対する憧れが高まり、野球人口の裾野の回復・拡大につながることを期待されるところです。

##### (1) 整備の水準

県民アンケートの結果、プロ野球の開催を望む声が多く、多くの県民が県立野球場での、国内最高峰の競技レベルであるプロ野球（公式戦）観戦を楽しみにしていることが窺えます。こうした県民の期待を踏まえ、プロ野球（公式戦）が開催できる水準の施設設備を目指します。

##### (県民アンケート結果 (R4. 10. 20~11. 19)) 【再掲】

第1位：プロ野球が開催できる水準の規模・設備	20.8%
第2位：誰もが楽しく観戦できる環境の整備	15.9%
第3位：多目的利用による賑わいの創出	14.3%

##### (2) 球場の方位

野球場の方位は、選手ファーストと観客ファーストの2つの考え方があります。

選手ファーストの場合は、野手が太陽を背にしてプレーできるように、投手から本塁への向きを北東方向に配置します。野手は、フライ捕球の際、太陽が目に入ることがなく、ボールが見やすく、捕球しやすいと言われており、現在の県立野球場をはじめ、多くの地方球場で採用されています。

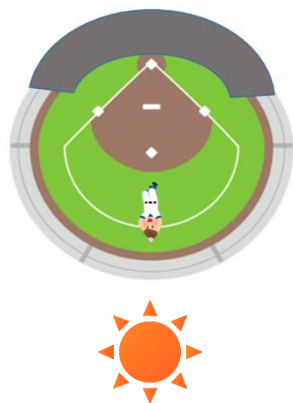
一方、観客ファーストの場合は、多くの観客が太陽を背にするように、本塁を南西方向に配置します。

観客にとっては、打球が太陽と重なることなく、見やすくなり、アメリカの多くの球場で採用されています。また、観客席に屋根を設置する場合、日陰部分が大きくなります。

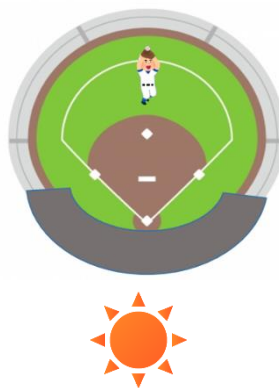
現野球場は、北東向きとなっており、新野球場でも選手ファーストの観点から、現在と同様、北東向きとなるよう配置します。

## ■野球場の方位について

北東向き（選手ファースト）



南西向き（観客ファースト）



【北東～北向き】 阪神甲子園球場、楽天生命パーク宮城、ZOZO マリンスタジアム

ハードオフエコスタジアム新潟、倉敷マスカットスタジアム、秋田県立野球場

長野オリンピックスタジアム、松山中央公園野球場

石川県立野球場、金沢市民野球場、小松運動公園末広野球場 など

【南～西向き】 横浜スタジアム、明治神宮球場、MAZDA zoom-zoom スタジアム

### (3) スコアボード

プロ野球（公式戦）が開催される球場は、大型映像とスコア等がLEDで一体表示されるもの（一体型）が多く、地方球場では分離型が主流となっています。

現野球場は分離型ですが、建て替えを機に、プロ野球球団の本拠地球場でも採用されている、一体型のスコアボードの導入を検討します。

（一体型のスコアボードイメージ）



（分離型のスコアボードイメージ）





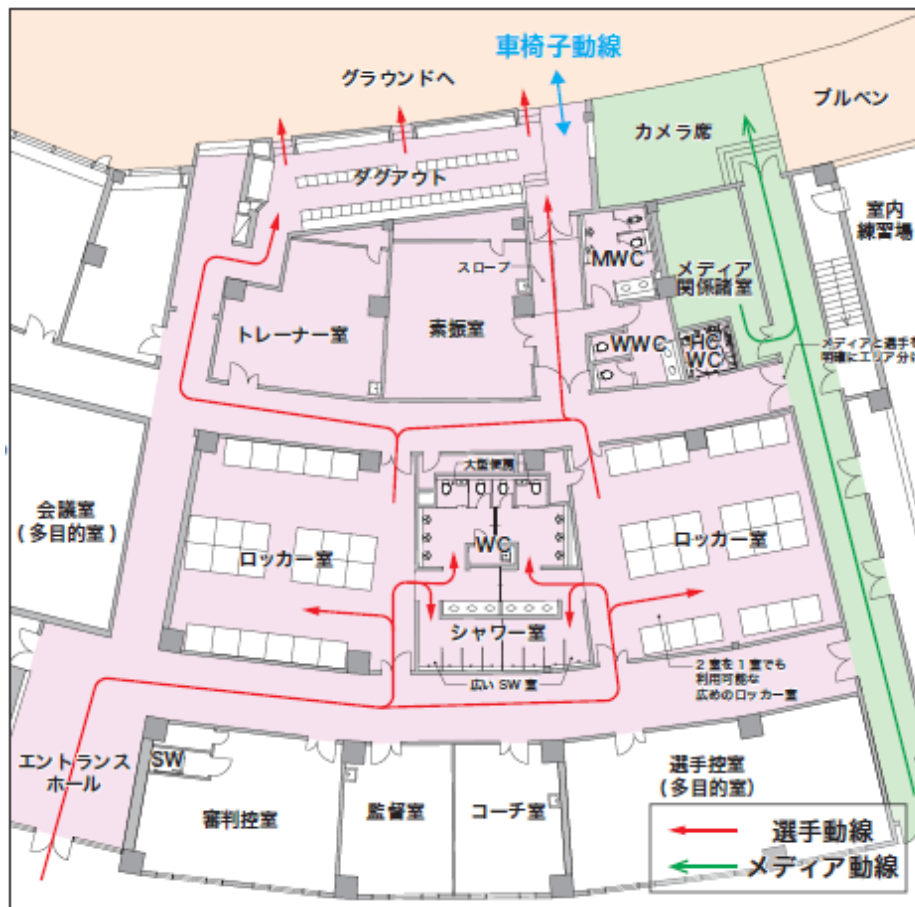
#### (4) ロッカールーム、室内練習場等

##### ①ロッカールーム等

野球の大会は1日に数試合が行われることが一般的です。このため、試合毎の選手の入替がスムーズになるよう、ダッグアウト（1塁側・3塁側）への出入口やロッカールームを複数設置します。

また、女子野球選手が増加していることを踏まえ、女子選手が利用しやすくなるよう、ロッカールーム毎にトイレを設置するほか、次の試合のための選手の待機場所を設けるとともに空調設備も完備します。

##### ■ロッカールームイメージ図



##### ②室内練習場

現野球場では、球場内に室内練習場がなく、試合前のウォーミングアップは、西部緑地公園の多目的広場やソフトボール場で行われています。金沢市内など近隣の高校などでは、高校のグラウンドでウォーミングアップを行ってから、県立野球場へ向かうチームもあります。

なお、県内には、このようなウォーミングアップのスペースがない球場もあり、こうした球場では、試合間隔を長めにとって、球場内でウォーミングアップを行うなどにより対応している例もあります。

このため、県立野球場では室内練習場を設けることとし、試合前のウォーミングアップでも利用できるような十分な広さを確保するとともに、冬季利用、フットサルなど多目的な利用ニーズにも対応するほか、野球関係者の講習会などでも利用できるような会議室など諸室の充実に努めます。

#### 4-4. ビジョン③ 誰もが楽しく観戦できる環境整備

本県では、国のスポーツ基本計画を踏まえ、スポーツを「する」人に加え、「みる」「ささえる」人を含めた「スポーツ参画人口」の拡大を推進しています。

県立野球場が、年齢や性別、障害の有無を問わず、県民の各層から親しまれる施設となるよう、誰もが楽しく快適に観戦できる環境を整えます。多くの県民が県立野球場に足を運ぶことは、野球に対する関心、愛着が高まるほか、公園全体の賑いや活気を生み出すことにつながります。

##### (1) 熱中症対策

第3章課題の整理の3-2(3)で記載したとおり、甲子園に向けた夏の高校野球石川大会が開催される7月は、現野球場整備当時と比べ、平均気温が3～4℃上昇しており、熱中症リスクが高まっています。

こうした熱中症のほか、雨天時に対応するため、観客席の屋根の設置について検討します。

また、他県の野球場では、球場内のコンコースやダッグアウトにミストシャワーを設置している例も見られます。噴霧された水分が蒸発して気体になる際に、大気中から熱量を吸収し、気温が高く、湿度が低いほど、気化が促進され、冷却効果が高まると言われています。新野球場では、こうした熱中症対策についても検討します。

##### ■観客席の屋根のイメージ



阪神甲子園球場



秋田県立野球場

##### ■ミストシャワーのイメージ



MAZDA Zoom-Zoom スタジアム



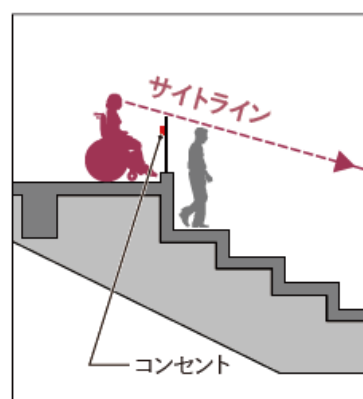
オロナミンC球場（鳴門市）

## (2) 車イス用観覧スペースの設置

現野球場では、1階バックネット裏の諸室を観覧スペースとするなど、車イス利用者の観戦に配慮していますが、車イス利用者も観客席で一体感をもって観戦できるよう、車イス利用者用の観覧スペースを設けます。

その際には、前列の観客が立ち上がっても、車イス利用者の観戦に支障を来すことのないよう、サイトラインを確保するほか、エレベータの設置、ピクトグラムを活用など、観覧スペースへのアクセスについても十分に配慮します。

### ■車イス用観覧スペースとサイトラインのイメージ



## (3) ICT 技術の活用

ICT 分野は技術進歩が著しく、スポーツ分野においては、選手・チームの競技パフォーマンス向上の支援や競技観戦者がより楽しめるよう、エンターテインメント性の向上に活用されています。

新野球場では、こうした技術進歩に対応していくため、大人数が同時に利用しても通信できる高密度 Wi-Fi の導入など ICT 技術の活用について検討します。

## (4) フェンスの高さ（再掲）

新野球場では、フェンスの高さについても、甲子園球場に準拠することとし、選手にとっても、観客にとっても、甲子園球場と同様な環境で、臨場感をもって、野球の試合を楽しんでいただくことを目指します。

また、ラバーフェンスの上部にしっかりと防球ネットを整備し、観客の安全に十分に配慮します。

## (5) スコアボード（再掲）

プロ野球（公式戦）が開催される球場は、大型映像とスコア等が LED で一体表示されるもの（一体型）が多く、地方球場では分離型が主流となっています。

現野球場は分離型ですが、建て替えを機に、プロ野球球団の本拠地球場でも採用されている、一体型のスコアボードの導入について検討します。

#### 4-5. ビジョン④ 環境負荷軽減・ユニバーサルデザインによる施設整備

県立野球場の供用開始から、半世紀近くが経過し、その間に社会が成熟しており、昨今では、環境への配慮や、障害者、高齢者、外国人を含むすべての人が利用しやすい施設とすることが求められています。新野球場では、こうした重要な社会的課題にも、できる限り対応します。

また、西部緑地公園は、災害の際の指定緊急避難場所に指定されており、新たな県立野球場では、太陽光発電や発電機の活用による非常用電源の確保や貯留雨水の生活用水利用など、緊急避難場所としての機能の充実にも努めていきます。

##### (1) 環境負荷の軽減

現在、地球温暖化が進行しており、世界全体で、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出削減など、地球温暖化対策を進めることが喫緊の課題となっています。

本県でも、2050年までに、いわゆる「カーボンニュートラル」（日常生活や事業活動により排出されるCO<sub>2</sub>の排出量から森林などによる吸収量を差し引いて実質的な排出量をゼロにすること）を目指し、県民、事業者、行政等の協働による各種の取組みが進められているところです。

これを踏まえ、太陽光発電設備の導入により、再生可能エネルギーの活用に努めます。さらには、施設全体でのLED照明の採用や高効率照明・高効率空調によるエネルギーの効率的な利用、高性能外皮断熱・日射遮蔽などによる建物内の環境維持に必要なエネルギーの削減などにより、ZEB Ready※ 相当を目指します。

※ZEB Ready（ゼブ・レディ）とは、Net Zero Energy Building Readyの略称。

再生可能エネルギーを除き、省エネ技術で基準一次エネルギー消費量（断熱使用、設備毎等により定められる標準的な1次エネルギー消費量で、省エネルギー基準は2016年）を50%以上の削減を実現している建築物。

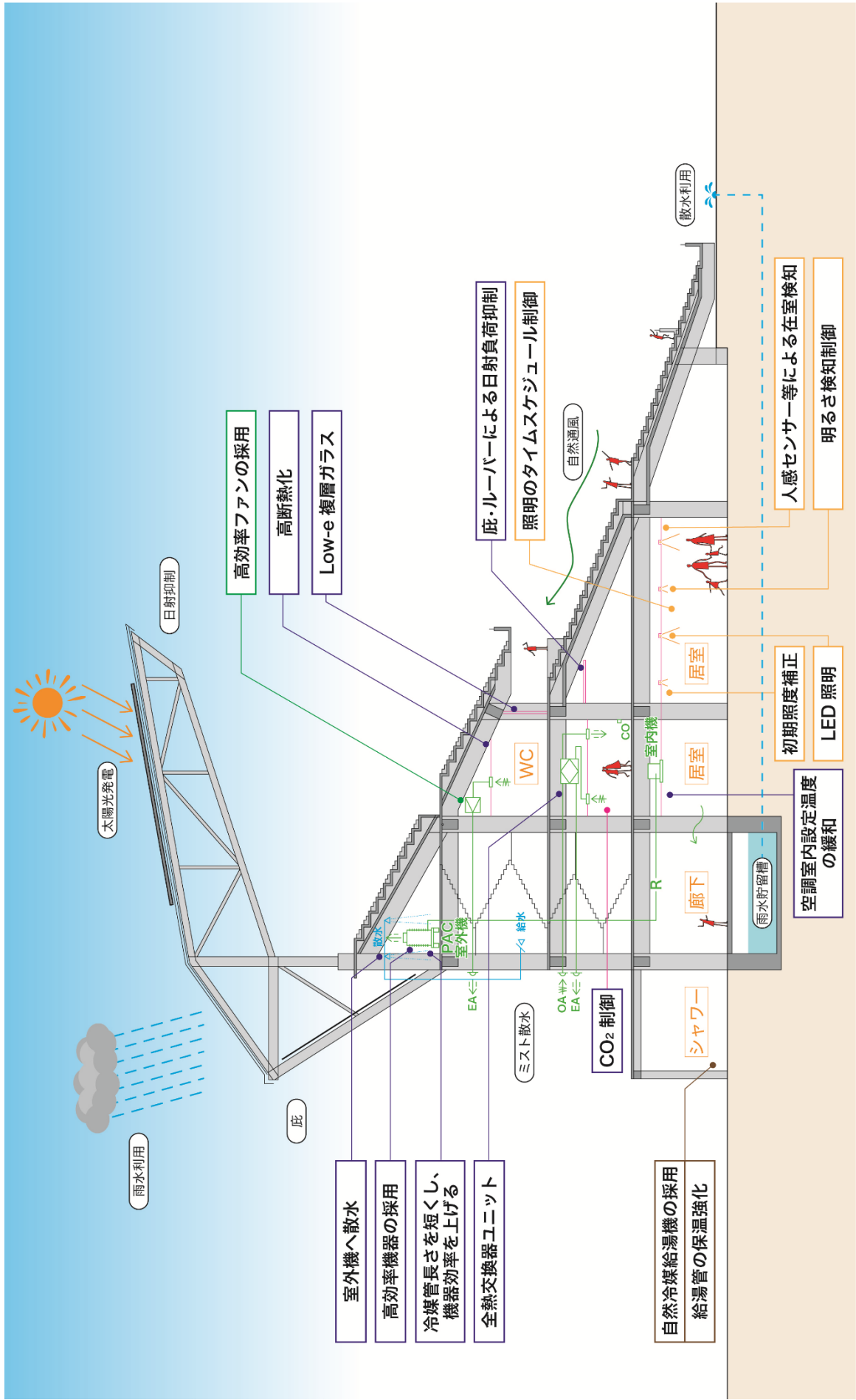
#### ■太陽光発電イメージ



(参考) 他球場での太陽光発電量(年間)

・阪神甲子園球場	193,000kwh
・MAZDA zoom-zoom スタジアム	104,800kwh
・ナゴヤドーム	62,000kwh

■ 新潟立野球場における環境負荷軽減手法のイメージ



## (2) ユニバーサルデザイン化

現在、我が国では、高齢化率が約3割と増加傾向であることに加え、出生率が1.3前後で推移するなど、少子高齢化社会にあり、今後、人口減少の中で更なる少子高齢化の進行が見込まれているほか、国内の外国人住民数は増加傾向にあります。このため、施設整備にあっては、年齢や国籍、障害の有無などに関わらず、誰にとっても利用しやすいデザインとすることが求められています。

障害者や高齢者にとっての障壁を取り除き、安心して快適な生活ができるようするバリアフリーに対し、ユニバーサルデザインは、年齢や性別、身体的能力などの違いに関わらず、初めから、できる限り全ての人が使いやすいようにデザインする考え方になります。

新たな県立野球場では次の取り組みにより、ユニバーサルデザイン化に努めます。

### ① ピクトグラム

ピクトグラム（絵文字）は、言語を使わなくとも情報を視覚的にわかりやすく伝え、理解してもらえるとといった特徴があります。

#### ■ピクトグラムイメージ



### ② エレベータの設置

車イス観戦者はもとより、今後、増加が見込まれる高齢者も観客席までスムーズに行けるようエレベータを設置します。

加えて、ダッグアウト等に車イスの方でもスムーズに出入りできるようにフラット化するなど、施設全体のユニバーサルデザイン化を目指します。

#### ■エレベータ設置イメージ



### ③ 多様なトイレの設置

多目的トイレは便利な反面、設置数が少なく、行列ができてしまい、利用するまでの待ち時間が長くなってしまいう傾向が見られます。これを踏まえ、トイレの機能分散の観点から、身体障がい者も利用しやすい大きめのトイレの数を増やすなど、多様なトイレを設置します。

### ④ 動線のシンプル化

現野球場は、駐車場が分散しており、必ずしも駐車場から野球場へのアクセスが分かりやすいとは言えない面があります。公園全体の再整備と合わせて、駐車場からのアクセスを含む野球場全体の動線のシンプル化(ユニバーサルデザイン化含む)に努めます。

#### 4-6. ビジョン⑤ 賑わいの創出

西部緑地公園内には、産業展示館や陸上競技場などの施設が集積しており、野球場整備の検討にあつては、公園全体やこれらの施設との関係性、役割・機能の分担について考慮する必要があります。

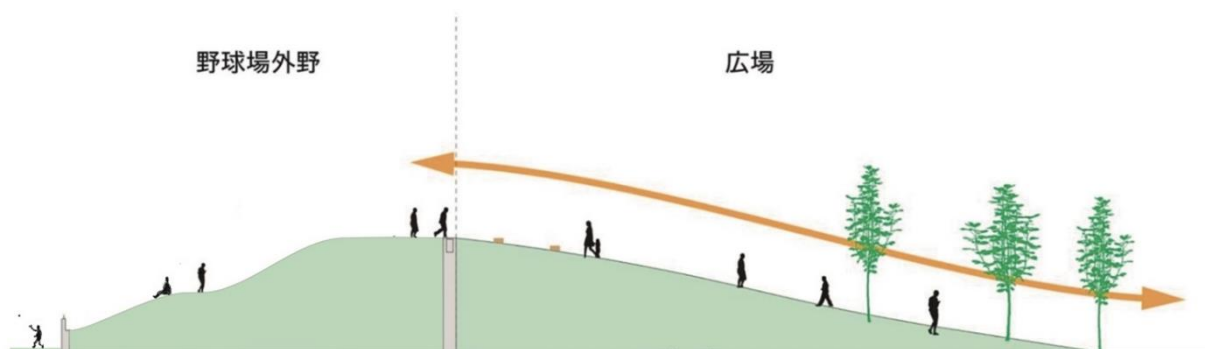
そのうえで、野球場においては、野球の試合がない日や、野球にあまり興味がない方でも楽しめるような方策など、賑わいの創出に向けた野球場の役割や必要な機能について検討します。その際には、雨天時や冬季の利用方策について考慮します。

##### (1) 公園とのつながり

公園内に設置される球場であるため、その立地を活かし、公園とのつながりが感じられるよう、外野席を芝生席としたうえで、公園緑地に起伏を設け、外野席の最後部と高さを揃え、繋げます。

これにより、緑地空間がより一層、広く感じられ、これまで、関係者以外あまり目にすることがなかった野球場内が開放的になり、公園来場者にとって、これまで以上に野球場が身近に感じられるようになります。

##### ■公園とのつながりのイメージ



##### (2) 室内練習場（再掲）

新野球場では、十分な広さの室内練習場を1塁側・3塁側のそれぞれに整備することとしています。

他県の例でも、室内練習場は通年で利用されており、特に通常、野球場のグラウンド利用が難しい12月～3月の冬季については、野球の練習場所として、多く利用されています。また、サッカー、フットサル、ソフトボールなど野球以外の競技で利用されることもあります。

県内の野球やサッカーなどの屋外競技の関係者からは、雨天時や冬でも利用できる練習場を求める声があることから、室内練習場の整備は、こうしたニーズにも対応するものであり、多くの方の県立野球場の利用につながると考えられます。



### (3) 外野席下のスペースの活用

緑地の再配置や遊具の設置など公園全体を再整備することにより、子育て世代の親子など、より多くの方の来園が期待されることです。

また、野球人口が減少傾向にある中、子どもたちが野球場を身近に感じ、野球に対する興味・関心を高めていくための取り組みが、今後、益々重要になっています。

このため、外野席下のスペースを活用のうえ、児童用遊戯施設の整備について検討します。

降雨・降雪が多い北陸特有の気候を考慮すると、屋内遊戯施設の設置は、利用者の利便性、ひいては公園全体の魅力の向上につながります。

#### ■外野席下のスペースの利用例



松山中央公園野球場  
(スポーツフロア)



倉敷マスカットスタジアム  
(武道場)



等々力球場  
(老人いこいの家)

### (4) パブリックビューイング・全国大会等の誘致

近年では、世界大会を中心に注目度の高い大会・公式戦において、大勢の方が集まり、一体感を持って応援する、パブリックビューイングの開催が増えてきています。県立野球場の建替えに伴い導入する大型スコアボードを活用したパブリックビューイングの実施を検討するほか、県野球協会などの関係団体と連携のうえ、アマチュア野球の全国大会、大学野球のキャンプ・リーグ戦などの誘致を検討します。

#### ■パブリックビューイング、全国大会イメージ



パブリックビューイングのイメージ



全国大会のイメージ

### (5) キッチンカー等の活用

地方球場では、野球場内の売店は、一定の集客が見込まれる大きな大会の開催期間中に限定して営業されており、プロ野球の開催時などは、野球場周辺でキッチンカー等の臨時店舗が開設されることが一般的となっています。

このため、県立野球場においても、野球場内ではニーズに見合った売店スペースとするほか、野球場周辺に、キッチンカーやプロ野球開催時のグッズ売り場としても使用できるよう、ゆとりのあるスペースの確保により、イベントの集客力・来場者ニーズに応じたサービスが提供できる環境を整備します。

#### ■キッチンカーイメージ



球場周辺のキッチンカーのイメージ①



球場周辺のキッチンカーのイメージ②

■新県立野球場のイメージパース



